

第三十六回フオト旬会優秀作品(26年1月13日)

<自由題>



百までの満身創痕の
カテーテル 矢澤 正二
寸 評：先ず画面の迫力に眼を奪われます。横浜のドックヤードにあるオブジェだそうです。これを錯綜する血管に挿入するカテーテルに見立てたセンスは抜群です。

歌舞伎町天の岩戸を
押し開き 池田 隆
寸 評：これまた壮大な都会の朝の風景です。真ん中のビルに太陽があたり天照大神の神話を彷彿とさせます。舞台をご存知の歌舞伎町とは！



竹槍で戦をせんと
した時代 中村 晃也
寸 評：お正月の松飾の勢ぞろい。青竹を斜めに切った白い面が新年の清々しい雰囲気を出すが、戦争の時代を思い出すとは齢は取りたくないもの。

句 付 け

1 2 月の御題写真



好奇心 覗く気持ちは 生まれつき 黒澤 弘子

父親もカメラを覗きシャッターを 黒澤 弘子

覗いてる 覗きたくなる 人の性 池田 隆

見せましょうか釣られて買ったガラクタを 三 春

寸 評：今月は池田さん出題のなにやら（人？人形？）が店頭を覗き込んでいる写真です。

黒澤さん： 1) 人間の本性をズバリと指摘した厳しさ。

： 2) お店を覗いてる親子を写真に撮ろうと父親がカメラを覗いているという見立てです。

池田さん：黒澤さんと同一趣向の句です。真理を撞いてはいるが三句目になるとさすがに「覗く」という言葉に新鮮味がなくなってきました。池田さんの責任ではありませんが・・・。

三春さん：その点、この句は「覗いて」いないところを買われましたが、やや消化不良で句の意味が不明瞭です。難しいものですね。

注) 難しいから面白いので、出題者が悪いせいではありませんよ。